

茨城大学

【N015 茨城大学】

	茨城大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:465 第3年次:45） 工学部【夜間】（第1年次:40） 大学院理工学研究科（M:301 D:38）
沿革	昭和14（1939）年 多賀高等工業学校設置 昭和19（1944）年 多賀工業専門学校に改称 昭和24（1949）年 新制茨城大学工学部設置 昭和43（1968）年 大学院工学研究科修士課程設置 平成5（1993）年 大学院工学研究科修士課程を博士前期課程・後期課程 に改組 平成7（1995）年 大学院理工学研究科設置
設置目的等	<p>茨城大学工学部・理工学研究科の母体である官立多賀高等工業学校は、日立製作所の支援と茨城県の協力のもとに、我が国の工業振興と茨城県における工業教育の充実を目的として昭和14年に設置され、昭和19年多賀工業専門学校に改称された。</p> <p>新制国立大学の発足時には、多賀工業専門学校は、茨城大学工学部として承継された。</p> <p>昭和43年、学部において履修した一般的・専門的教養を基礎とし、広い視野に立って専門分野を研究し、精深なる学識と研究能力を養うことを目的として大学院工学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成5年、官民の研究施設及びハイテク産業の多数立地する地域的特性を生かして、社会人教育を積極的に進め、教育研究、文化、国際交流の諸点で地域の核として機能することを目的に、大学院工学研究科博士課程が設置された。</p> <p>平成7年に、創造的な研究開発能力と広い視野を持った高次技術者・研究者の育成、大学における学術研究の一層の推進、社会人教育や研究開発への協力をはじめとする地域社会への貢献を通じて、豊かで環境と調和した社会及び産業の発展に寄与することを目的に、工学研究科が理学研究科とともに改組され、理工学研究科となった。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>茨城大学においては、我が国の工業振興と茨城県における工業教育の充実を目的として設置された経緯を踏まえ、人と自然環境に調和したイノベーション創発と高度科学技術の実践を目指して教育研究に</p>

取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 基礎科学・応用科学に基づく幅広い多面的な視野と豊かな人間性、社会性、高い倫理性を養い、国際的に活躍できる人材を育成することを目標に、機械系・電気系など工学各分野において、我が国の産業基盤を支える高度な技術者を育成する。さらに、茨城県東海地域に隣接した地域的特色を生かし、日本原子力研究開発機構など周囲の研究機関と連携した原子科学関連の高度専門職業人養成の役割を果たし、博士課程においては、科学技術の社会的側面を考慮した、上記の理工学分野における高度な科学技術の研究能力に加えて、科学技術を社会に適切に伝え、説明できる能力を有する先導的な人材を育成する役割を果たす。
- 茨城県をはじめとする周辺地域の工学教育の機会均等に寄与する。
- 地域の企業群や研究機関と連携して行ってきた教育の成果に基づいて、地域企業を支える工学系人材を育成するとともに、国際的通用性のある認定教育プログラムを積極的に推進してきた実績を生かし、グローバルに活躍できる工学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して、不断の改善・充実を図る。  
理学系・工学系・農学系の連携を通じた共同教育プログラムを構築し、基礎科学と応用科学を融合しつつ、新しいイノベーション人材を育成する大学改革を目指す。
- 地球温暖化・気候変動などの地球環境変動の影響及び変動への適応に関する研究分野、中性子線源を利用した金属材料解析と金属材料プロセス開発に関する研究分野などの高い研究実績並びに地域的特色を生かし、国際社会に発信する工学分野の研究を推進する。
- 茨城県内中堅企業との多数の共同研究実績を生かし、地域産業の振興、地域社会の発展に貢献する。
- 首都圏北部地域活性化人材養成事業、組込みシステム技術の社会人技術者育成、溶接技術などの産業界の要請に基づく社会人向け講座開講などの実績を生かし、社会人の学び直しを推進する。
- 高大連携講座、模擬授業、小中高生向け最先端科学技術体験講座、理科研修講座、地元テレビ・ラジオによる情報発信などの実績を生

	かし、地域の高校生及びその教員に対して工学の理解向上を推進する。
--	----------------------------------